

令和 6 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視 点	4 年間の目標	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価	総合評価（3 月 25 日実施）	
		（令和 6 年度策定）		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（2 月 26 日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①自立と社会参加を目指し、一人ひとりの確かな学びを支える教育課程を編成する。	①自立と社会参加を意識し、身につけたい力について教育内容の充実を図る。	①「各学部段階で身につけたい力」を踏まえた年間授業計画を作成し、授業を実践する。	①「身につけたい力」の育成に向け、実態に応じた授業を実践できたか。	①「身につけたい力」の育成に向け、各学部段階で実態に応じた授業を実践した。	①校内研究等で授業の系統性について検討し、学年・学部ごとに系統性を意識した年間授業計画をたて実践する。	〈学校運営協議会〉 ①評価基準を満たした。次年度も継続してほしい。 〈保護者アンケート評価結果〉 ①「身に付けてきたことを踏まえた自立につながる学習内容」は 89. 9% 「ICT 機器の授業への活用」は 75. 5%が肯定	①「各学部段階で身につけたい力」を踏まえた年間授業計画を作成し、これに基づき授業を実践することができた。学部間のつながり、系統性のある授業計画・実践が課題。	①校内研究等で学部間のつながり、授業の系統性について検討し、年間授業計画に反映するとともに、系統性を踏まえた指導を実践する。
		②児童・生徒のいのちを守る教育を推進する。	②交通安全や防災教育、人権教育といった「いのちを守る」教育を学校生活全般で実践する。	②発達段階に応じて内容・場面を工夫し、各学部で「いのちを守る」観点で指導を進める。	②「いのちを守る」指導を実践し、必要な知識・技能を育成できたか。	②児童・生徒の実態に応じた防災教育・人権教育を実践し「いのちを守る」ために必要な知識・技能を育成した。	②引き続き「いのちを守る」教育を行い、知識・技能の定着を図る。あわせて災害時の情報伝達方法について検証する。	〈学校運営協議会〉 ②各学部で「いのちを守る」教育を実践し知識と技能を育成できたことは素晴らしい。次年度も継続してほしい。	①児童・生徒の実態に応じた防災教育・人権教育を実施し、知識と技能を育成した。次年度は保護者や地域と連携した防災について検討・検証する必要がある。	①次年度は引き取り訓練を実施し、災害時の情報伝達方法について検証する。また、地域の避難訓練等に参加する。
2	児童・生徒指導・支援	①アセスメントを踏まえた児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援を組織的に実践する。	①アセスメントを授業づくりに反映し、授業改善を推進する。	①標準検査や日常場面における行動観察の情報を共有し、それに基づき指導を行う。	①アセスメント結果を授業づくりに反映し、授業改善を実践できたか。	①支援室と連携してアセスメントを実施し、その結果を個別教育計画作成や授業づくりに反映することができた。	①専門職による研修等を行うことでアセスメントの活用法を具体的に学び、授業づくりや授業改善に反映していく。	〈保護者アンケート評価結果〉 ①「実態を的確に把握した上で目標や手立てが設定されている」は 93. 2%の肯定的評価を得た。	①支援室と連携してアセスメントを実施し、個別教育計画作成や授業づくりに反映した。アセスメント結果の活用力向上が課題。	①専門職を講師に実践研修を行う。学部研修等でアセスメント結果の活用事例を共有する。
3	進路指導・支援	①障害のある児童・生徒及び関係者が将来の社会生活に見通しを持てるようにするとともに本人参加による進路選択の実現に向けた進路指導・支援を行う。	①児童・生徒一人ひとりの進路支援に向けて、教員の知識の向上を図る。 ①本校や地域に向けた進路に関する情報発信の充実を図る。	①教員対象の研修(学習会や見学会)を実施する。 ①学校運営協議会の部会とも連携し、地域と共に学ぶ機会を設定する。	①学部等の実態に即した研修会(学習会や見学会)を実施し、進路支援に対する教員の知識・理解が深まったか。 ①福祉や進路に関する情報を本校および地域の方へ発信し、一定の評価を得られたか。	①各学部で教員対象の進路研修会を計画的に実施し、進路支援に対する知識・理解を深めることができた。 ①保護者や地域の方向け説明会や見学会等を開催して進路情報を発信し、一定の評価を得られた。	①引き続き計画的に研修を実践し教員一人ひとりの知識の向上を図り、児童・生徒の段階に応じた進路指導・進路支援の充実を図る。 ①今年度のアンケート結果を踏まえ、保護者や地域の方に向けた進路情報提供の充実を図っていく。	〈学校運営協議会〉 ①全学部で進路研修会を実施し教員の進路指導に対する知識が向上した。 〈保護者アンケート評価結果〉 ①「進路に関する情報を伝えているか」は 84. 5%で、「進路指導の充実」が今後に期待することの 1 位だった。	①各学部で進路担当を講師に進路研修会を実施し教員の知識・理解の向上を図った。本人参加による進路選択を目指した指導・支援の充実が課題。 ①保護者や地域の方向けに進路学習会と見学会を開催し、進路情報を発信した。個々のニーズに応じた情報提供が課題。	①あらゆる機会を通じて自己選択・自己決定する力の育成を図る。将来の社会生活に見通しが持てる学習の機会をより多く設定する。 ①保護者や地域のニーズを把握し、これに応じた情報を学習会やお便り、HP など様々な方法で発信する。

	視点	4年間の目標	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月25日実施）	
		（令和6年度策定）		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（2月26日実施）	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①共生社会の実現を目指し、地域と連携し、地域の支援を充実させるとともに、地域と連携した学校づくりを推進する。	①特別支援教育のノウハウを発信するとともに、地域を支援する校内人材の育成を図る。	①教材教具や支援の手立て等に関する情報を巡回相談やHP、研修会等を通じて発信していく。	①地域との連携や協働を通じて、校内の人材育成を図ることができたか。	①公開講座等で特別支援学校が地域で担う役割（センター的機能）について職員の理解を促し人材育成を図った。	①公開研究協議会等ですべての教員が地域に向けて実践内容を発信できるように意識づけていく。 ①アンケート結果をもとに、地域のニーズを踏まえた研修会や教材展を開催する。コーディネーター便りを発行し校内外に情報を発信する。	＜保護者アンケート＞ ①「センター的機能等を通じた地域との連携」は68.5%。 ＜学校運営協議会＞ ①子どもに直接関わらない取り組みは見えにくい。 「ほ도가やクソバーティング」は身内感が強い。幅広く参加者を募り、共生社会の実現に向け意見交換ができると良い。	①公開講座や教材教具展・HP等で特別支援教育のノウハウを発信し、地域の方からは一定の評価を得ることができた。 保護者への情報発信に課題が残った。	①より多くの方が参加できるように公開講座等の実施時期を調整する。実施後はHPやお便り等で実施内容を紹介する。
			①交流学习や地域との協働活動を進める。	①地域との連携・協働を進めるために、各学部・分教室で色々な形での交流学习に取り組む。	①交流学习および地域との協働活動により地域との連携を進めることができたか。	①学部ごとに近隣校や自治会等と協働活動を行い連携を進めることができた。	①引き続き近隣校との交流学习の継続・充実を図る。あわせて地域の資源を活用した協働活動の場を模索し拡充を図る。	＜保護者アンケート/学校運営協議会＞ ①「地域資源を活用した教育活動」の評価は77.2%。「お互いを理解・尊重できる近隣校との交流」は66.9%。 様々な交流を活発に行っているので、伝わりやすい方法を工夫して情報発信の充実を図るとよい。	①各学部で交流学习や作品交流、地域との協働活動等に積極的に取り組み参加者から一定の評価を得られた。一方で保護者の評価があまり高くないのは、交流や協働活動に関する情報発信が弱いことが考えられる。	①引き続き地域との交流を継続・拡充するとともに、実施後はHPやお便り等で具体的な取り組み内容を紹介する。
5	学校管理 学校運営	①安全な環境を整備し、安心して学ぶことができる学校づくりを推進する。	①教育環境を計画的に改善し安全を確保する。	①教育環境の整備を進め、安全上必要な対策について職員間で共有する。	①教育環境の整備や改善を図ることができたか。	①必要な対策を施し安全な教育環境を整備した。また、安全管理マニュアルも整えた。	①老朽化が進んでいることから、引き続き環境改善に努めるとともに、実態に応じた学習机等の改善を図っていく。	＜学校運営協議会＞ ①教育環境の整備・改善を積極的に進めた。次年度も継続してほしい。 ＜保護者アンケート＞ ①「防災・安全対策等の整備」の評価は85.0%。 「人権を尊重した丁寧な指導」は91.1%の評価を得た。	①安全上必要な対策を施し、教育環境を整備することができた。また、安全管理マニュアルをわかりやすく整えることができた。	①老朽化対策工事等に伴う安全確保を徹底する。日常的に教育環境を点検し安全を確保する。
		②教職員が児童・生徒と向き合う時間を確保するため、職員の働き方改革を推進する。	②業務の整理や効率的な業務の遂行方法等を検討し、働き方改革を進める。	②前年度の実績を踏まえ、各学部・グループで業務の見直しを進める。	②各学部・グループで業務の見直しに取り組む、効率化を進めることができたか。	②各学部・グループで会議の精選、業務整理、業務委託を進め業務の効率化を進めた。	②業務の偏りが課題。次年度は業務分担を見直し平準化を図る。マニュアルの活用を進め、さらなる業務の効率化を図る。	＜学校運営協議会＞ ②業務整理や効率化に積極的に取り組み、職員の働き方改革が進んだことは良いが、職員間の情報共有が十分なされていないと感じる。必要なことまで削減していないか検証する必要がある。	②各学部・グループで業務内容を見直し、業務の精選・整理を図り効率化を進めることができた。一方で必要なことまで削減・整理していないか検証する必要がある。	②業務を見直したことで効率よく進められているか、必要な業務には継続して取り組んでいるか検証する。引き続き業務の平準化を図る。